

2025年
(令和7年)

12月4日

(第三種郵便物認可)
昭和23年4月15日
毎月3回発行
(第1、第2、第3木曜日)

今号の特集

▷アレルゲン
対応食品特集 ④～⑦面
▷加工米飯特集 ⑧面

中部飲食料新聞社ホームページ

<http://chuin.net/>【業界情報発信中】



味の素は、うま味調味料です。
さとうきびの糖蜜を発酵させて
つくっています。

第3563号

発行所
中部飲食料新聞社

名古屋市中村区名駅5-18-9
電話 (052)571-7116代表
FAX (052)571-7118

東京局

東京都中央区日本橋横山町1-4 203
電話 (03)5614-7531
FAX (03)5614-7532

中部 大正から 飲食料新聞 食を伝えて100有余年

中部食料品盟 問屋連盟

正会員合同懇談会 賛助会員合同懇談会

会員一丸となって発展へ

中部食料品問屋連盟は11月18日、正会員・賛助会員合同懇談会を名古屋観光ホテルで開催。正会員・賛助会員合わせて約200名が出席した。

合同懇談会は永津嘉人会長の挨拶に始まり、日本加工食品卸協会・時岡肯平専務理事が「日本加工食品卸協会活動報告」「加工食品サプライチェーンの現状と課題」をテーマにした講演会が行われ、急成長した大学時代の食生活や東海地方の食文化の思い出、監督時代のチームに管理栄養士を雇い食事を改革したことなど食に関するエピソードを語った。



また、記念撮影や質疑応答が行われた。懇談会は佐藤太一常任理事が「中食連は長い歴史のある団体であり、食品の卸の団体として全国屈指の存在である。長く活動が続いている秘訣としては卸同士の結束の強さが挙げられ、卸のみならずメーカーとの関係も深い。引き続き結束を強め、連盟を盛り上げていきたい」と挨拶して始まり、カゴメ・伊藤・章名古屋支店長が「今年はメジャリーグの日本人選手の活躍が印象的であり、ス

また、記念撮影や質疑応答が行われた。懇談会は佐藤太一常任理事が「中食連は長い歴史のある団体であり、食品の卸の団体として全国屈指の存在である。長く活動が続いている秘訣としては卸同士の結束の強さが挙げられ、卸のみならずメーカーとの関係も深い。引き続き結束を強め、連盟を盛り上げていきたい」と挨拶して始まり、カゴメ・伊藤・章名古屋支店長が「今年はメジャリーグの日本人選手の活躍が印象的であり、ス

食品流通では政府が主導して持続可能な物流の構築に向けた物流の合理化や商習慣の見直しなどが行われて

いる。卸は以前より「協調と競争」を掲げ協調分野で多くの取組みを行い、農水省から他の業界と比べて非常に進んでいる。卸は以前より「協調と競争」を掲げ協調分野で多くの取組みを行い、農水省から他の業界と比べて非常に進んでいる。

と評価を頂いている。サプライチェーンの中間に位置する業界団体として、業界の効率化や適正化を果たしていきたい。

なお、中食連として来年3月に「健康フェスタ」を行うので、会員企業の皆様はご家族とともに参加して盛り上げて欲しい。

永津会長
商品の価値伝え消費喚起
消費は節約志向が顕著で厳しい状況にあるが、徐々にはあるが消費支

アサヒグループHD
システム受注・出荷再開など発表
アサヒグループホールディングスは、サイバー攻撃による情報漏えいに関する調査結果や、商品の出荷状況や見通し、システムによる受注・出荷再開等について発表した。

「事業の復旧状況」については、10月9日よりアサヒグループの国内全工場が再稼働を開始。物流関連システムの復旧に伴って、出荷できる商品やリードタイムに制限は残るものの、今後、出荷品を順次拡大する。酒類は「スーパードライ」などのビール類を中心に

出荷。ビール類以外のカテゴリーは主力ブランドを中心に出荷を再開しており、今後は出荷品種を順次拡大。飲料は「三ツ矢」「ウィルキンソン」「カルピス」などの主力ブランドから商品を絞込み出荷しており、今後は出荷品種を順次拡大する。

また、システム障害の影響で決算手続きに遅延が生じており、現時点でのシステムの復旧状況や会計監査人による監査手続きなどに掛かる日数を勘案。25年12月期の通期決算の開示に期末後50日を越える見込みとなったことから、通期決算発表を延期することを決めた(説明会詳細記事は次号に掲載)。

出が増加傾向にある。賃金と物価の好循環の絶好の機会であり、メーカーは付加価値の高い商品を生産し、卸はその価値をしっかりと伝え、消費を喚起していきたい。

アサヒグループHD
システム受注・出荷再開など発表
アサヒグループホールディングスは、サイバー攻撃による情報漏えいに関する調査結果や、商品の出荷状況や見通し、システムによる受注・出荷再開等について発表した。

「事業の復旧状況」については、10月9日よりアサヒグループの国内全工場が再稼働を開始。物流関連システムの復旧に伴って、出荷できる商品やリードタイムに制限は残るものの、今後、出荷品を順次拡大する。酒類は「スーパードライ」などのビール類を中心に

出荷。ビール類以外のカテゴリーは主力ブランドを中心に出荷を再開しており、今後は出荷品種を順次拡大。飲料は「三ツ矢」「ウィルキンソン」「カルピス」などの主力ブランドから商品を絞込み出荷しており、今後は出荷品種を順次拡大する。

また、システム障害の影響で決算手続きに遅延が生じており、現時点でのシステムの復旧状況や会計監査人による監査手続きなどに掛かる日数を勘案。25年12月期の通期決算の開示に期末後50日を越える見込みとなったことから、通期決算発表を延期することを決めた(説明会詳細記事は次号に掲載)。

「横浜下永谷店」オープン

バローは、神奈川県横浜下永谷店を11月21日に開店した。同店は神奈川県横浜市港南区の住宅地のロードサイド店で、ヤマダ電機の居抜き店舗。SM売場2041㎡、バックヤードは1339㎡、共有面積227㎡。11月28日にはダイソー、12月5日には西松

「旬」鮮度「価値」にこだわって、食の新鮮さを提供。業者様大歓迎とした。野菜・果物でのケース単位の販売を実施。さらに生フルーツを使用した店内調理の八百屋のフルーソデザートコーナーも大

きく取った。鮮魚売場で奥のスペースで展開。人気の飛騨牛コロッケ売場の前には行列ができていた。また味噌串カツをはじめ各種「ナゴヤメシ」物産類が多く販売されていたほか、関東の消費者を意識し和日配売場が大きく取られた。

このほか、約700種類のPB商品が各売場で販売されているほか、「味噌煮込みうどん」の売場など、中部を意識した売場スペース、POPの掲示が多かった。店舗入口に生花販売スペースが確保していたのも印象的。

オープン初日の午前中には予想を大きく上回る長い行列ができ、バロー、同店舗に対する関心の高さが感じられた。

ドミニー

社長に竹之内氏が就任

ドミニーの代表取締役社長に竹之内栄生氏(バロー取締役会長に就く。また、篠花明氏、生田志朗氏が新たに取締役に就いた。



竹之内氏の略歴
▽1964年10月23日生
▽87年ユーストピア(現ユニー)入社▽14年ピアゴ

自然のおいしさ!!

ゴジマ ジヤム

小島食品製造株式会社

本社 東海市名和町一番割中25

電話 (052)603-3511



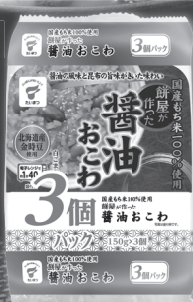
り、今後、出荷品目を順次拡大していく。
「12月からの「システム」による「受注・出荷再開」は、12月2日からアサヒグループ食品でシステムによる受注を再開し12月11日以降の納品分から商品が届けられる予定。12月3日からは

アサヒビール及びアサヒ飲料でシステムによる受注を再開、12月8日以降の納品分から商品をお届けする予定とする。
そして26年2月までには、全商品の出荷再開には至らないものの、制限が残る配送のリードタイムを通常化することで物流業務全体の正常化を目指すことを発表した。

また、システム障害の影響で決算手続きに遅延が生じており、現時点でのシステムの復旧状況や会計監査人による監査手続きなどに掛かる日数を勘案。25年12月期の通期決算の開示に期末後50日を越える見込みとなったことから、通期決算発表を延期することを決めた(説明会詳細記事は次号に掲載)。



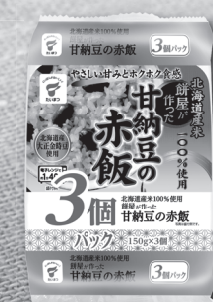
餅屋が作った
醤油おこわ



餅屋が作った
醤油おこわ 3個パック



餅屋が作った
甘納豆の赤飯



餅屋が作った
甘納豆の赤飯 3個パック

ご当地の味をご家庭でお手軽に楽しめる
「ご当地おこわ」シリーズ



電子レンジで
約1分40秒

※写真はイメージです。

たいまつ食品株式会社

本社 〒959-1794 新潟県五泉市村松 1345
Tel.0250-58-6135 (代) Fax.0250-58-2845

ホームページアドレス
<https://www.omochi.ne.jp>